

# 会 議 録

会議名	第3回みよし市文化財保護委員会		記載者	教育行政課 資料館 塚本 弥寿人
期 日	平成30年2月27日(火)		場 所	みよし市役所 2階 201会議室
	午後2時～2時40分			
出席者	文化財保護委員		教育長 今瀬 良江	
	委員長	石川 芳秋	事務局 館長 久野 俊人	
	職務代理者	岡本 洋子	副主幹 林 久義	
	委員	鈴木 睦子	主任主査 嘉見 俊宏	
	委員	酒井 孝芳	主任主査 塚本 弥寿人	
	委員	原田 重助		
欠席者	委員	鈴木 昭		
傍聴者	0名			
内 容				

午後2時

## < 典礼 >

ただいまから平成29年度第3回みよし市文化財保護委員会を開催いたします。

文化財保護委員会の会議は、みよし市の附属機関の設置及び運営に関する要綱に基づき、個人情報にかかわる事案の審議以外は公開することとなっておりますので、よろしく願いいたします。はじめに教育長より挨拶をお願いします。

## < 教育長 >

皆様こんにちは。本日はお忙しいところ第3回みよし市文化財保護委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。日ごろ本市の文化財保護等について、さまざまなご視点からのご意見・ご支援いただきまして、ありがとうございます。本日は文化財資料の購入について諮問させていただきます。本日ご協議いただく資料がこちらに並んでいるのですが、私自身も深く存じ上げなかったのですが、江戸時代の南画家小島老鉄の巻物でございます。本市では伊豆原麻谷に関する資料を集めており、84点ほど今まで資料館に収蔵されておりますけれど、その伊豆原麻谷と大変縁があった方であるということ。それから本日の作品にも伊豆原麻谷の一筆が加えられているということで、麻谷を本市の文化人として称えるにふさわしい作品ではないかと思っておりますが、いずれにせよ皆様のお目にかなうかどうかということで、今日のご意見いただきまして、もしよろしければ購入していきたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。

## < 典礼 >

続きまして石川委員長よりご挨拶をお願いします。

## < 石川委員長 >

ご無礼いたします。私どもの任期の最後の会議と相成りました。今日の議題は、ご案内にあります

ように、伊豆原麻谷の交友関係というか、活動の状況を知る、貴重な資料であるということで、購入について諮問をいただきましたので、またご意見を賜って、結論を出したいと思います。よろしくお願ひいたします。

<典札>

ありがとうございました。これより会議の取り回しは石川委員長にお願ひいたします。

<石川委員長>

それでは、いま資料がそこに展示してありますけれど、その前に、小島老鉄という方がどういう方かということで、ちょっと復習をしたいと思ひます。私はこの図録を持ってまいりました。資料館が作られた図録、平成 27 年度秋季特別展で、麻谷とその時代ということで、ここに 5 人の絵師が載っております。その中に、一番上が竹洞、中林竹洞。これは麻谷からいうと 2 つ上ですね。それから梅逸。梅逸は 5 つ、5 歳年下です。で、その下に、この小島老鉄。これが計算してみると 14,5 離れている。それからもう一人が林稼亭という方で、5 人衆がその当時活躍していた。中でも麻谷と老鉄は、資料にも書いてありますけれど、息子が門人になったということで、とても仲が良かった。それから資料館が所蔵しておる作品の中に、老鉄と麻谷が共同で 1 枚の軸を描いた、ここにもありますね、左に麻谷が描いて、右に老鉄が描いたもの。そんな軸はめったにはないですね。今回のこのいわゆる巻紙ですね、それに箱書きを麻谷がしたということで、ということは、大変二人の交流が盛んにあった、そういうことが購入の目的のようであります。なお老鉄の作品は、図録に 4 点載っておりますので、またこれを見ていただいて、作風はこういう風か、本日の資料には、作風がどうのこうのということが、吉田俊英さんの感想には書いてあるけれど、その作品じゃなくて、あくまでも仲の良さというのが、ひとつの狙いですから、そういう観点で見たいと思ひます。これは老鉄についての事前の復習です。ではその購入についていかがでしょうか。まずいっぺんご覧いただいて。どうぞ。

(資料実見)

<石川委員長>

後がありますので、先を急いでしまい、肝心なことを忘れてしまいました。

今日は鈴木昭委員が所用があつてご欠席です。ですから委員は計 5 名ですけど、条例 11 条 2 項により成立しますので、会議を始めました。それともう一点は、会議の議事録、例によって委員長がその署名者になっておりましたが、今回もそれでよろしいですか。

<全委員>

異議なし。

<石川委員長>

ご異議がないようですから、私がおの任に当たります。申し訳ありません。

それでは、今ご覧になられた資料についての説明を事務局お願ひします。



異議がないようですから、そのように答申いたします。

この際、2年前に私どもが保護委員の委嘱を受けて、その後、各委員さんは文化財の発掘なり、発見なり、さらに文化財に対する関心を高める、そういう活動をしてこられたかと思います。私自身でいうと、残念ながら悔いの残る2年であったなと思っておりますけれど、この際、2年の皆様方の活動の中で、これは共同の情報として公開しても良いなというものがありましたら、この際出していたければ、あるいは、資料館の活動、特に企画展についてのご意見なども、これもありましたら、お出しをお願いします。忌憚のないご意見、いかがでしょうか。

<酒井委員>

よろしいですか。もっと大きいほうの話になっちゃうと思うんですけど、本当に、子供の頃からみよしで育って、いろいろやってきて、これでちょうどもうすぐ満68歳になるわけだけれども、日本全体が走ってきて、みよしも走ってきて、どちらかという、その、古きよきものを、捨ててきちゃった部分があって、こういう委員会に属して、非常にそれは勉強になったかなと思います。僕の場合は、退職してから生涯学習課でいろいろな講座を持つために、また自分も勉強してということもあったんだけど、やはりそこで講座やってみても、やっぱり今の市民の皆さんがなかなかみよしの昔を知らないというか、昔の基礎があって、上に今があるということを知らない部分大きいと思う。基礎があってね。一番身近なところでは、三好池があるおかげで住みよしみよしになっているのだけれど、その、何であれができたかどうのこうのって、なかなか知られない。今の住民、6万人おる中で、どれだけが理解しているか。昔から住んでいる人でも、散歩に便利で良い所だけれど、何でそれがあるかというのは知らないという部分はあると思うんですよね。やはりそういう意味で、やはり古い時代の遺産もそうだし、近代的な遺産のことについても、もうちょっと、取り扱っても良いんじゃないかなという気はしますね。愛知用水のことやなんかを資料館の展示でね。出来てもう50年過ぎたわけですよね。工事が始まった当初、私はよちよち歩きで、新屋の祖父に連れられて、曲り池の横でいつも見ておったわけですよね。これでまた耐震工事が始まりますが、その、あそこの堤防を作りながら、中にどういう風でシールドをして、水が漏れない工事をしておったかというのを目の前で見ていました。粘土の玉を手渡しぐらいで置いて、ついてついて、堤防の真ん中にそのシールドの層を下から積み上げていって、というやつを見ていましたけれど、だから、そういう先人のあれも、源蔵さんが生誕何年になるのか、久野源蔵さんが、没後何年になるか知らんけれども、そういう機会にやられたらどうかなと思う。もっとそういうことも大事じゃないかなと思う。今総合計画で、手を上げて出させてもらっているけれど、将来的なことも結構言われるわけですけど、やっぱり歴史の中で将来を見ていくという、昔の旧鉄筋の庁舎が名古屋刑務所と引き換えに出来たとか、そういうことだよ。先人たちのあれで、今があって、それで将来的なという部分も、僕は何とかしていただきたいと思うので、それでたとえば、湿地やなんかをたくさん、北部開発で埋めてきちゃったわけです。埋めてきちゃって、そこに住んでる人たちが、木を切るなどか

どうのこうのと言われる方がいっぱいおって、私たち非常に不満なんですよ。やっぱりお互い様

というか、良い所悪い所のバランスをとって、生きていくためには、やっぱり残すべきところを残して、福谷城もそうですけれど、窯跡もそうですけれど、人を、観光の役に立つとかどうのこうのという意味じゃなくて、やっぱり後世に残しておくものをきちんと市が残してほしいなという気がします。酒井眼科も含めて。

<石川委員長>

ほかにどうでしょうか。

<岡本委員>

私からも意見をお願いします。

石川家を開放されるときに、いろいろ、少しかかわらせていただいたんですけど、本当にその後、いろいろなイベントをしたり、市民にいろんな参加を呼びかけたりしていただいて、よく努力していただいておるなあと、本当に感謝しております。民俗資料館についても、いつもあの前を通るたびに、もうちょっとあの建物が前にあったら、もっとみんなが使いやすいだろうとか、あんな立派な、一所懸命展示をしておってくださるのに、もっと皆さんに参加していただきたいな、そんな想いだけで日々を過ごさせていただいて、せっかくこんな会に参加させていただいておりながらも、申し訳ないなど、半分反省しております。ただ、私いろいろな会議に参加させていただいておるときに、みよし市6万人だけではなくて、周りの市町にもうちょっとアピールができれば良いなあって。狭い、そんなに広くないみよし市です。人口も6万ちょっと。でも立地的には名古屋と豊田の真ん中ですし、高速道路等もありますし、もっと外からみよし市の魅力を見に来てほしいな、ぜひみよしに足を運んでほしいな、そのために、もうちょっと、歴史の、なんと申しますか、観光地になるまではいかないと思うんですけど、みよしの外にアピールする方法を何か考えていったら、もっとみよしという街が、皆さんに知っていたただけるんじゃないかなと。どこに行っても、最初は、豊田の近くですとか、名古屋からちょっと入ったところすとか、そんな説明を試みたり、やっぱりもっとみよし市というところを、歴史も含めて、いろいろな面から、皆さんに知っていただきたいなということを思っております。まとまりませんが、以上です。

<石川委員長>

では、私が1点。

昨日ね、私、檀家が下の阿弥陀寺さんです。阿弥陀寺さんが、今回花祭りを復活します。4月8日の2時から4時まで、花祭り、灌仏会というやつだね、甘茶かけるという、あの行事をやりますという。あ、これは珍しいなあとと思って、それでは花祭り、ほかの地域はどんなふうかなと思ってね、早速町誌の中に、みよしの民俗報告書という、こんな厚いやつ、報告書、あれをだ一つと見たら、花祭りの項目ありました。いま、伝統的に毎年やって見えるお寺さんは、明知の浄久寺さん。やって見えるだね。

<岡本委員>

浄久寺さん。下明知ですね。

<石川委員長>

甘茶ね。前は、やっぱり子供が対象になるものだから、子供が一斉で帰ってくる時刻に合わせてというふうで、確かに明知の浄久寺さんはずーっとやってみえるが、打越なり、それから、特に北部のほう。北部のほうは、それこそ昭和の終わり、平成の頭までは、それこそ白い象のあれを引っ張ったというのが、その報告書に書いてありました。私がそれこそ町誌を作るときに、市内のお寺の仏像調査に行きました。その時に、花祭りに使うあの誕生仏、唯我独尊というね、それが浄久寺さんもたしかに、浄久寺さんの場合は16センチです。こんなもんだね、16センチ。それと誕生仏を置いてという、この小堂だね、花御堂。あれもちゃんとあるし、それから上でいうと、医王寺にも、花御堂はあったですが、あそこは誕生仏がなかったけれども、そんなようなことで、これは、以前もこういう花祭りがおこなわれておったなということを、改めて知りました。それこそ、ご存知のように、12月になると、それこそクリスマスだ、ジングルベルだでは、お釈迦さんの誕生日の4月8日はぜんぜん音も何もないもんね。せめて、そういう花祭りがあつたら、甘茶をかけて、結局あれは、産湯だな。お釈迦様の産湯。それにもし近くであつたら、子供だけじゃなくて、われわれもお参りしたいなと、そんな風に昨日思いました。浄久寺さんは、白い象も小屋にしまっているそうだね。前は引っ張っていた。

<酒井委員>

僕が南部におったころの、あの人が保護者だった頃は、あつたんです。浄久寺だけじゃない、打越の大覚寺も、打越の南部の仏教会が来て、象を引っ張って、一緒に帰っていったんです。だから国体の頃、平成5、6年ころ、僕が南部におったころは、まだあつたんです。いつからなくなったのか、おる間か、僕が役場に入ってからなくなったかは別として、浄久寺が南へ持っていく、大覚寺が北へ持っていくって、下校のときに象の車をひいて、帰って行ったのは、南はまだここはやっておるなど思っただけ。それまでは僕は天王におって、その前藤岡だったから。だからその時代まではあつたんです。だいたい20年前までは。学校から、だけれどまあ、いろいろ宗教のことだから、今難しいものだから、すぐあれだから。

<原田委員>

医王寺さんってお釈迦さんないんですか。私ら子供の頃医王寺さんでやりました。

<石川委員長>

やっぱりや。医王寺は花御堂はあつた。だけれど誕生仏がなかった。

<原田委員>

え。私らかけていましたよ。どこ行っちゃったんだろう。

<酒井委員>

ある意味、お寺さん今大変な時代だもんで、医王寺さんの住職、観栄さんのお孫さんだけれど、和合のお寺亡くなって、今兼任になってるでしょ。今お寺が継ぐ人がなくて、財政的にもあれだから、兼任になって、僕も今お寺の役員やっているので、あるお寺で、住職が兼任でおらんお寺、しっかり仏

像を修理して直した途端に、盗難にあったという話もあって、ある意味、実際にうちの帳簿に載っている、文化財として載っているのが本当に残っているかどうかというのもね、どっかで調べたほうが良いかもしれん。住職変わっていく間に金になっちゃっていたりとか。

<石川委員長>

ほかにどうでしょうか。

<鈴木睦子委員>

はい。私が良いなと思ったのは、みよしに住んでいる子供たちが、学校で最初に自分の地元を習って、それでみよし市を習う、本当に良い教材があって、それをお母さんたちも家で読んでいるというのを聞いたことがあるんですよ。越してきた方は、本当にわからないので、小学生のときに自分たちが調べたものを、また発表もして、父兄が、保護者が聞いていると。だからそういう、子供たちが、民俗資料館の方たちが来て、なんか習ったり、そういうこともしているので、そういうことはすごく良いなと思いました。その教材も、本当にわかりやすい教材を、子供たちが見ている。それを知ってすごく良いことだなと思いました。越してきた方は本当わからないので、そういう子供たちから学ぶこともあるので。本当に知らない人たちについて、いろんなことをお知らせするのはいいことだと思いますね。

<今瀬教育長>

副読本「みよし」というのがあります。

<鈴木睦子委員>

すごく良い本だと思います。

<今瀬教育長>

子供たちの社会科の副読本ですが、みよし独自のやつで、去年大幅に作り直して、みよしの歴史のこととか全体のことわかりやすくして、子供たちの教科書代わりに使っています。

<酒井委員>

昭和 52,3 年ぐらいから作り始めた。僕らが教員になった頃に副読本作ったんです。いま教育長さんが言われたように、何年か経って改訂されている。うちの 100 歳の親父のところに、福田の権現池の話聞きにきた。それがいま消えたかどうか知らんけどね。そういうものが載っている。

<石川委員長>

もう 1 点ね。いま気が付いたというわけではないけれども、特に展示会、企画展の PR の件で、資料館の関係の方が非常に積極的に PR をしていただけるということで、特にみよしの広報はもちろんですけど、例えば中日新聞なりや朝日なりに、ああいうマスコミに積極的に話を持ちかけられて、一番私が、うわこれはすごいなと思ったのは、伊勢門水。伊勢門水のあの件については、中日だから、中日の豊田版のあそこに、トップ記事でだーんと載っておって、これはすばらしいなと思って、ムキになって読んだら、これは良いことだなと、やっぱりああいうところに PR するのは良いことだなということと同時に、あの資料を提供されたのが福谷の根浦の岩田さんだな。あれは岩田助役さんの関

連の方じゃないかな。でその寄託者の名前を伊勢門水のところで話が出た。やっぱりあれを見て、それじゃあおれのところ、こういうやつがあるからいっぺん資料館に話してみようかなという、そういうきっかけになるかなと思ったわけです。旧石器・新石器の遺物の稲垣さん、あれも稲垣さんというのが公になっておるし、それから昆虫展、あれは東郷の方ですけれど、それからひな祭り、寄贈された方の名前が全部ひゅーひゅーとね、サンライズ今日見たら、あれないわと思って、やっぱり聞いたら、あまり長くはだめだということ。でも寄贈者の名前が出る。あ、それじゃ私のところも出しましょうかという、そういうきっかけになるでね、コレクターの名前を出すのも、やっぱり良いじゃないかな、そんな風にいまちらっと思いました。私は以上です。ほかにどうですか。

では当委員会は以上でよろしいでしょうか。

<典礼>

ありがとうございました。委員皆様方のいろいろな貴重な意見をいただきましたので、また資料館についてはいまお話しがあったように、いろいろな事業展開しておりますけれど、なかなか認知度がまだまだ低いものですから、また改めていろいろな展開を考えていきたいなと思っております。またその節にはよろしく願います。皆様方につきましては、任期が3月末ということで、これであと1箇月あまりとなりました。こういった会議も最後となりますので、皆様方の保護委員としての活動に対してお礼と感謝を申し上げます。ありがとうございました。引き続き来年度もよろしく願います。また教育委員会にかけてまいりますけれど、よろしく願います。

それでは本日予定されました議事はすべて終了いたしました。平成 29 年度第 3 回文化財保護委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

午後 2 時 40 分